

県指定重要無形民俗文化財

小野の獅子舞 (大倉獅子・新田内長獅子)



大倉獅子▶

▼ 新田内長獅子



所在地

田村郡小野町大字小野新町
・大字飯豊

保護団体

小野獅子舞保存会

小野大倉獅子は、九月三十日を踏揃フミゾクと称し、妙見神社、山の神等をはじめ各社めぐりをし、翌十月一日には鎮守塩釜神社で本舞を舞う。獅子は各戸の長男とされ、小学一年生頃から始め、二十年は努めるという。

獅子は太郎、次郎、三番、四番……九番（雌獅子）の九頭が出るのは珍しい。ほかにささら振り二名、笛方及び歌方がつく。基本の並び方は二列、太郎側四頭、次郎側四頭、ささら振りはそれぞれの先頭につき、雌獅子は後にいる。これらが輪になり、二列になり入れ交り、もとになり、一列になるなど、並び方を色々に替えて踊る。雄獅子たちが雌獅子を争うくだりもあるが、これはごく象徴的な演じ方をしている。笛も歌もよく伝承されている。

新田内長獅子は、九月十五日に八雲神社で舞われる。大倉のと同じ流儀の獅子であるが、こちらでは十一頭出る。構成は大倉のと同じであるが、ただ、ここでは笛方とささら振りを失っている。その代りに獅子の数をふやしたものである。踊りはしっかりとしたものであり、歌もよく歌われている。獅子歌も多くを伝えている。

県内に数多くある獅子舞のうち、構成の特殊な獅子として、また、信仰深く演じられ、伝承されている点に於て価値が高い。